

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301567		
法人名	特定非営利活動法人 しゃらく		
事業所名	グループホーム・トントン邑		
所在地	青森県八戸市湊高台三丁目1番10号		
自己評価作成日	令和6年8月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和6年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①利用者には安心・安全・安定のある生活をしていただくため、職員は研修や講習に参加してケアの質を高めると共に、利用者の感情表現を大切に、自己決定を促して尊重している。その人らしく、最後まで安らぎと喜びのある生活をしていただいている。</p> <p>②ホームとして町内会に参加している。町内総会や避難訓練時に、町内会、民生委員、婦人会等にも参加していただき、交流を深めている。</p> <p>③成年後見制度や任意後見制度、日常生活自立援助事業等の紹介、手続きの支援等、虐待の早期発見と対応を行う権利擁護を行っている。</p> <p>④病院や福祉施設、公営住宅、民間アパート入居時の身元保証支援を行っている。</p> <p>⑤身障者手帳取得申請や生活保護受給申請の支援。</p> <p>⑥遺言状の作成や相続、葬儀身辺整理の支援を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域に根ざしたホームを目指し、町内会へ加入して、地域活動も積極的に行っている。</p> <p>勤務体制は職員からの希望をできるだけ調整し、働きやすい環境を整備している。また、問題が生じた際等も、解決に向けてまずは職員同士で検討する等、日頃から職員が責任感を持って業務にあたり、能力向上に繋がるように取り組んでいる。</p> <p>また、玄関先の亀やペットの犬の飼育、趣味活動を支援する等、利用者の癒しやその人らしさを大切にして生活を継続できるよう、ホーム全体で取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所、ホール内に掲示している。職員の採用時は説明をしている。	開設当初からの理念を掲げ、全職員で共有している。また、理念はホーム内の常に目に付く所に掲示し、職員が理念を意識して日々のサービス提供に取り組めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前、地域の夏祭り等に行っていたが、最近では外出していない。近所の障害者デイサービスの子供達が、ハロウィンやクリスマス等、ホームの玄関前に来て、歌を歌ってくれる。	町内会に加入し、地域で開催される行事にも参加している。また、婦人部からの寄贈がある他、近隣施設のこども達の訪問等もあり、地域住民との良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降、公民館や町内の行事に行けていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価及び外部評価結果を報告している。	民生委員や婦人部の方等がメンバーとなり、運営推進会議を開催している。会議では、ホームの取り組み状況は勿論、新聞記事等も活用して社会情勢に関する事等も取り上げ、幅広く話題提供を行いながら、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事があれば、質問票にて質問をしている。	行政職員が運営推進会議のメンバーとなっており、ホームの状況を理解していただいている。また、必要に応じて、制度やサービスに関する事等の相談を行い、助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年数回、身体拘束をしないケア、高齢者虐待防止法の研修を行っている。	ホームでは身体拘束をしない姿勢で、日々のケアを実践しており、身体拘束に関するマニュアルや書面同意、記録の体制も整備している。夜間以外は玄関も施錠せず、職員の見守りで対応している。また、運営推進会議でも身体拘束に関する勉強会や意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年数回、研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人が高齢者の身元保証等をしているため、職員も理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、お金のかかる部分も細かく説明し、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、相談や苦情申立について、市の介護保険課、国保連をお知らせしている。また、玄関に相談箱を設置している。	家族には面会時に聞き取りを行っている他、ホームだより等でも利用者の暮らしぶりを報告し、意見等を出しやすいようにしている。また、玄関に意見箱を設置している他、重要事項説明書も掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事、勤務体制や介護に関する事等、柔軟に対応している。	ユニット毎に定期的に会議を開催し、運営上の連絡事項や身体拘束委員会の報告等が行われている他、利用者毎のカンファレンスや職員からの提案事項等が話し合われている。ホームでは職員同士の連携が取れており、リーダーを中心に職員同士で話し合いを行い、業務上の改善点やアイデア等を管理者に伝え、職員から出された意見を反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の努力や功績、勤務状況を把握し、給与水準も毎年見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報提供をしている。また、法人外の研修やオンライン研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等には参加しているが、交流する機会はできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族から詳しく聞き、入所以降は毎日声がけしながら、要望や話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設側の情報を説明し、何か要望がないか声がけをして、聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お泊り経験がない人には、ショートステイ等で慣れてから入所するように言っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのできる事を把握しており、発揮できる場を、利用者と職員で共に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや面会時にて最近の様子を伝え、要望は受容している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は家族のみだが、感染対策でマスク着用をお願いしている。また、電話はいつでも対応している。	センター方式のアセスメントを活用している他、入居時の家族等からの聞き取り、利用者との日常会話から、馴染みの人や場所を把握している。また、年賀状や電話のやり取りができるようお手伝いしたり、お墓参りに同行する等、利用者の希望に応じて、可能な限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でのコミュニケーションは見守りし、職員が間に入る等しながら、関わりが持てるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の家族からの相談や介護サービス等について、支援に応じている。また、次の施設の情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で、希望や要望の把握に努めている。困難な場合のみ、家族からの情報収集や、日常の生活状況より読み取るようにしている。	職員は日々の会話は勿論、利用者の気持ちの変化等も観察しながら、思いや意向を把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を把握しており、これまでの馴染みある物や、生活環境により近いサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し、個々のリズムに合わせて、できる事の作業や学習、レクリエーションを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員との気づきの話し合い、意見、アイデアを共有し、訪問介護からのアドバイスに基づき、介護計画を作成している。	日頃から利用者の意見等の把握に努めている他、担当職員の意見も取り入れ、3ヶ月毎のカンファレンスで全職員による意見交換を行い、介護計画を作成している。また、見直し時には家族の意見も集約し、介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、記録記入や職員での話し合い、実践を行い、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族との暮らしの継続に努めており、外出や外出等の支援をするための対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出できないが、運営推進会議時、町内の方と交流を持つ時もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診希望を大切にしており、家族の協力もあり、通院をお願いしている。往診の結果等は家族と共有している。	家族の協力を得ながら、希望する医療機関を受診できるように支援している他、往診の体制もある。また、家族には電話や面会時に受診結果を報告し、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師への報告や相談で、適切な受診、処置ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者退院後のケア、病状の情報交換、相談をし、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備えて、利用者家族と早期からの話し合いを行い、医療機関等とのチームで支援できるようにしている。	指針を作成し、重度化や終末期に対応について、ホームの方針を明確にしている。ホームでは、利用者の高齢化が進む中、状態変化に応じてケアプランを見直し、住み慣れたホームで不安なく過ごせるよう、かかりつけ医の判断と家族の意向を確認しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、訪問看護師や看護職員からアドバイスを受け、全職員で共有している他、研修等に参加し、実践力を上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で避難場所を認識しており、利用者と一緒に散歩で避難場所まで行き、確認をしている。	昼夜を想定し、年2回、避難誘導訓練を実施しており、避難場所までの移動訓練も行っている。ホームでは、玄関や事務所等にハザードマップや避難の心構え等を掲示し、職員や家族への意識付けとしている。また、運営推進会議でも訓練の報告発表をして、理解と協力を仰いでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた声かけを行っている。居室で過ごす時等、プライバシーに気をつけている。	入居時に個人情報の取り扱いについて説明し、書面にて同意を得ている他、第三者への情報提供も家族に確認を取る等、取り扱いも慎重に行っている。職員は利用者の尊厳を大切に考え、日々のケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決定できる事は、希望に沿っている。できない方には反応みる等して、決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調等をみて、本人のできる事を見つけて、無理のない程度に過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを知り、季節に合わせた服装にしている。また、本人に選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の食べ方を知り、食べやすいように工夫している。食べ物の説明等を行っている。手伝える方には、野菜の皮むき等を手伝ってもらっている。	献立は栄養士の職員が作成しており、利用者から食べたい物を聞き、希望に応えるようにしている。また、禁忌食材や苦手な物には代替品を提供している。ホームでは食事前に、誤嚥防止のための嚥下体操も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に合わせた量や水分を提供している。食べやすいように細かくしたり、ワンプレートで提供する方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや一人ひとりの口腔ケアを行っている。本人の能力に合わせ、できない事は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄回数を記録し、把握している。失禁時の対応は、他の利用者に気がつかれないように行っている。	利用者個々の排泄状況を記録に残し、職員全員が事前誘導するタイミング等を把握している。排泄に失敗した場合も、他の利用者に気づかれないよう、羞恥心に配慮し、自尊心を傷つけない支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事にしたり、水分を摂るようにしている。下剤等を利用している場合には、個々に合わせた利用量で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は利用者の入浴方法等、利用者の意向を取り入れている。入浴を拒否する利用者には、声がけの工夫をしている。	週3回の入浴日を設けており、入浴を拒否する場合は本人の意向を確認しながら、工夫して対応している。また、浴槽の手摺りに掴まっても跨げない方には、シャワーチェアでの入浴となるため、着脱時に寒くないよう、ストーブで暖めながら支援する等、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の出来事や疲れ具合に応じて、休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤飲等がないよう、支援体制を整備し、薬の処方や用量が変更した時は、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の安全確保や他の利用者に迷惑がかからないようにし、一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	6月から7月にかけて、利用者の中でコロナに感染した方がいたため、通院以外、外出禁止としているが、ドライブはするようにしている。また、家族とは事務所で面会している。	花見や外食、地域の祭りへの参加等、利用者が外出を楽しめる機会を提供するように心がけている。また、墓参りや馴染みの理髪店等、利用者が希望する外出先についても、個々の希望に応じて、可能な限り対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金の所持はしていないが、希望があれば、買い物に付き添う等の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話をしたり、電話が来たらすぐに対応し、会話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等、共同で使用する場所は、照明や温度等をその都度調整し、季節感のある物を飾っている。	ホーム内の至る所に、四季折々の行事写真や作品が掲示されており、利用者が季節の変化を感じると共に、面会に来た方も利用者の暮らしぶりがわかる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士を隣の席にしたり、ソファの位置の配慮や、他者とコミュニケーションの場を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でのベッドの位置やタンス等、本人が使いやすいよう、動線に気をつける等の工夫をしている。	馴染みの物や使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、利用者にとって居心地良く、落ち着いて暮らせる居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者に対し、できる事を無理なく行えるよう、ADLの低下を防止するようにしている。		